



## 2023年9月「うつくしま地球温暖化防止活動推進員の会」(県北地区) 活動報告

9月25日13時30分から15時まで福島市内のアオウゼで16名が参加して、令和5年度第2回の研修会を開催しました。研修会は、福島市環境部環境課温暖化対策推進係の小林拓人さんが「わたしたちの福島～福島市の環境～」と題して、福島市が市内の小学校4年生から6年生の副教材として配布している同題目の令和5年度版の内容について約1時間の講演がありました。また、研修会終了後、16時まで第6回の会合を開催しました。活動報告では2022年6月の会合で確認してスタートした「地球温暖化防止かるた」の完成報告があり、活動の具体的成果を皆さんと確認することができました。今後、活用方法や内容の充実を図る参考にするためにこのLetterで「かるた」を紹介します。



なお、この「かるた」には1枚ごとに詳細な説明文が別途用意されています。「かるた」をしながらそれぞれの「かるた」の札の意味を理解することが鍵になっています。具体的な利用方法については県北地区の推進員にお尋ねください。なお、この「かるた」の絵札は水彩画サークル・あじさいの皆さんによって作成されています。また、多くの企業・団体・個人からの多大なご支援をいただいたおかげで完成させることができました。改めて地球温暖化防止に関する熱意を感じることができました。なお、この「かるた」は福島市内の小学校や令和5年度ふくしまゼロカーボンへの挑戦表彰制度(学校版)で受賞される学校へも副賞としてお渡しすることになっています。県北の会では貸し出し用も準備していますので、利用したい方は「福島県地球温暖化活動推進センター(024-944-0083)又は福



島県環境共生課（024-521-8516）までお問合せください。なお、利用にあたっては推進員が持参することも可能です。

### 「わたしたちの福島～福島市の環境～」

福島市環境部環境課温暖化対策推進係の小林拓人さん

福島市は2021年2月に「脱炭素社会実現実行計画」を策定し2050年に温室効果ガス排出量をゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しました。福島市の脱炭素実現計画

(2023年8月)では図1に示した4つの基本方針が示されています。1つ目は再生可能エネルギーの導入拡大、2つ目は省エネ・省資源へのライフワークスタイルのシフト、3つ目は温室効果ガス吸収源対策、4つ目は適応策の推進となっています。また、地球温暖化では異常気象



図1 福島市ゼロカーボンシティ実現に向けた4つの基本方針

の発生や海面上昇、熱中症や感染症の増加、食料不足などが示されていますが、福島市に住んでいる者としては、これらの課題や気候リスクへの具体的対応について知りたいと思いました。また、講演では家庭からの二酸化炭素の排出量やクールチョイス、再生可能エネルギーや水素エネルギーについての現状を示し、福島市特有の事象として、あらかわクリーンセンターでゴミを燃やして発電するバイオマス発電を行い、公共施設やももりんシェアサイクル、電気自動車の急速充電器に利用していることなどが紹介されました。さらに、課題となっている「ゴミ」問題では、図2に示すように、2016年から2021



図2 福島市のごみ排出量の変化

年まで約16%の減量化が進んでいますが、現在もなお1人1日当たり1091gと全国平均の890gを大きく超えて、全国ワースト14位(259都市中)となっていて、さらに削減する必要性が示されました。これまでの削減の主体は可燃ごみで、その他のごみはほとんど削減されていない様子が図2から分かります。ごみ減量の方策の一つとして循環型社会へのシフトが提案されましたが、「ごみ回収を有料化しても不適切なごみ置きが増加し、集積場を汚している自治体もある。戸別収集などこまめな施策を含めないとごみ削減の課題は克服できないのではないか」といった意見が参加者から出されました。また、ごみ問題は先に掲げた4つの基本方針の省エネ・省資源化や温室効果ガスの削減にも大きく関連し、一人一人の意識向上が大切になっていることを改めて確認することができました。

この他にも福島市内の河川や生物多様性、大気汚染や騒音などの環境問題に加えて、環境守るために①主役は自分であること②ポイ捨てのない町づくり③エコ活動などの紹介もあり、改めて自分たちが住んでいる町の環境を知ることができる貴重な講演でした。

なお、令和5年度版「わたしたちの福島～福島市の環境～」については、福島県でも「ふくしまのかんきょう」を副読本として配布しており、可能な限りグローバルな環境問題を福島市の課題に焦点を当てて作成すると小学生だけではなく、大人にとっても理解しやすい教材になるように思いました。